

論壇

デフレ経済をどうみるか?(前編)

株式会社ロジタント 代表取締役

吉田 祐起

「南北の平均化」が 発生しはじめた

デフレが深刻です。失業率は依然として5%台を突破しています。就職活動を諦めているセクト(潜在失業者)をカウントすれば、その倍はあるというのが実態です。戦後右肩上がり一辺倒の日本人にとって想像外の出来事。産学政官あけての論議が渦巻く中で、決め手になる対策が見当たりません。そんな中、デフレ経済に関する持論を展開して、読者のご批判を得たいと考えます。社名が「ロジステイクス(物流)のコンサルタント&ロジツクス(正しい論理)のコンサルタント」に由来することから、モノの流れをベースに論理的思考で披瀝してみます。

筆者は今回のデフレの元凶を1985年のプラザ合意に遡ると早くから喝破してました。内閣府のデフレ認定(2000年3月中旬)より数年も前からこの事態の到来を予測し業界紙(誌)への執筆や講演活動で言及してきていたことから、一家言としま

す。

プラザ合意へのプロセスは紙面の都合で抜きにして、結果だけを見てみましょう。当時の円レートは200円台でした。それが半分の100円台に強引にされたのです。行き過ぎたドル高を是正する米国主導によるG5の協調介入の結果でした。仮の話、マツダさんの米国現地販売価格1万ドルのクルマによる収入が20万円から一挙に10万円に減額されたのですから堪ったものではありません。そんな中でも日本企業はその底力の見せ場とばかり、100円レートでもクリアしようと躍起でした。18年後における現在の結果を誰が予測したのでしょうか。

ジワリと製造業の海外移転が始まりました。でも、もともと超完全雇用を謳歌していた日本(人)でしたから余り気にしていませんでした。人手不足が解消される、とばかり呑気なことを考えていたフシもあるのです。その間、発展途上国が低賃金を武器に日

本の海外移転を加速させました。「産業空洞化」の本格化です。悲しいかな、その間隙を埋める新しい産業の開発を怠りました。ちなみに、米国は似たような産業空洞化を日本より早く体験しながら、IT産業などで見事に補いました。

製造業の海外移転で低価格の商品が逆輸入され始めました。前後して流通業界による「価格破壊」政策が進展しました。企業の収益は悪化の一途を辿り始めました。リストラに次ぐリストラ、消費者マインドの減退、販売価格下落と販売数量減少のトリプルパンチが発生しました。その間、資産デフレに次ぐ賃金デフレとなり、完全なデフレスパイラル現象に陥りました。



プロフィール

昭和6年10月生まれ。同35年から運送事業経営に携わり、当初は零細個人事業だった会社を多角経営、分社化、M&A等でグループ7社、従業員百数十人、年高20億円の総合物流商社に育て上げた。平成5年10月、「総合物流・経営コンサルタント」へ転身、ロジタントを設立した。国内外の物流事情に精通し、先見の明をもった持論を展開、講演や業界紙への執筆を数多く手掛け、近く自身の著書も出版予定。

人材のグローバル化が起きています。人材の価格破壊が起きているのです。加えて生産拠点のグローバル化による低賃金国の人たちの資質は、嫌でも向上の一途を辿りはじめています。モノからヒトまで心地よい居場所を求めて移動し始めているのです。こんなことから「南北の平均化」という現象が発生しはじめた、というのが筆者の弁です。つまり、賃金や物価の安い国や地方ではそれらが上昇し、反対にそれらが高いところでは安くなる、という極めて明快かつ、論理的な現象です。この大きなグローバルなうねりや胎動は地下のマグマの如く防ぎようが無い、と言いたいのです。皮肉なことですが、この「南北の平均化」はグローバル経済の落とし子の結果と言えらるでしょう。

(次号、後編に続く)